

# ドロップ平成 29 年度事業報告

## 1. 方針

利用者の個別のニーズに応え、地域での生活がより豊かなものになる様、支援を行う。

## 2. 目標と支援内容

### ① GH の利用者の余暇支援を充実させる。

ア 利用者の希望を基に、担当職員と相談をしながら、移動支援を実施する。  
→利用者からの利用希望に沿って、毎月移動支援の予定を立てて支援にあたった。担当職員と外出時の内容などの引継ぎを行い、楽しく安全に外出できるよう努めた。

イ ドロップ企画の余暇外出を実施し、余暇の幅を広げ、また、利用者同士の交流を図る。

大人数でのバスハイクや旅行以外にも、利用者が様々な体験を出来る様、少人数での外出や旅行なども実施する。バスハイクや旅行については、車椅子の利用者が参加し易い方法も考えてゆきたい。

また、恒例の夏の甲子園旅行については、参加利用者の重度高齢化により、暑さによる体力的な負担が大きくなった為、今年度より春の甲子園旅行に変更する。余暇外出の予定は以下の通り。

→車椅子利用者の参加が年々増加している（以前から車椅子利用だった利用者に加え、病気や加齢によって車椅子を利用する様になった利用者が増えた）事や高齢により重度化によって、余暇支援のスタイルも、変化してきている。大きなところでは、移動手段（リフト車の利用）と行程（シンプル化）、ヘルパー数（必要人数増加）があげられる。

今後も現状に合わせて、柔軟に対応したい。

5月 GW 旅行（横浜・三浦海岸、1泊2日）

→参加人数 34 名。

大きな問題なく実施できた。

6月 ビールエ場でバーベQ（横浜）

→参加者 5 名。電車で利用をしグループ外出形式を試みる。

大きな問題なく実施でき、バーベキューを楽しんでいた。

8月 バスハイク（箱根）

→参加者 21 名

この時期のバスハイクは、初めての試みであった。

夏休みの土日ということもあり、渋滞が多く車中で気分が悪くなる人もおり、トイレなどに苦慮した。

10月 バスハイク（山梨ぶどう狩り）

→参加人数が集まらず中止した。

11月 海外旅行（韓国 2泊3日）

→参加者 7 名

パスポートがない参加者がおり、パスポート取得から携わった。旅行は問題なく実施できたが、参加利用者が年々減少していることもあり、2年に一度実施する事とした。

12月 食事会

→参加者 11 名（木曾路）

各部所の忘年会と重なり、1月の新年会に変更している。

12～1月 正月旅行（伊香保温泉 2泊3日）

→参加者 54 名

例年より参加者が少なかった。大きな問題なく実施できた。

3月 春の甲子園

→参加者 11 名

参加者の重度高齢化に伴い、甲子園旅行は今年度を最後とする事とした。

ウ 手芸クラブ（月2回）、個人の手芸教室を開催する。

～手芸クラブ

利用者の希望を聞き、季節の行事なども意識しながら、偏りが無いよう色々な手法でのプログラムを提供する。また、さくらほりきり

の手作り作品展に出展し、鑑賞外出を行う。(10月)

→参加者9名、月2回に分けて、実施した。

～手芸教室

個人の手芸教室を行い、その人に合った「もの作りの楽しさ」が味わえるようなプログラムを提供する。また、さくらほりきりの手作り作品展に出展し、鑑賞外出を行う。(5月)

→月1回3グループに分かれて行った。

エ 料理教室を開催する。

GHの利用者を対象とした少人数の料理教室を開催する。(年4回)

→年3回(7月、11月、2月)実施した。

ウィメンズパルの調理室を利用して行った。

ヘルシーで、電子レンジを利用した料理を行っている。

② 在宅の利用者及び高齢利用者のニーズに合わせた支援を拡充する。

余暇支援のみならず、通学通所通院同行、入浴介助、家事援助、見守りなど、在宅ならではのニーズに応じてゆく。

また高齢利用者特有のニーズにも柔軟に対応する。

→休日や日中活動がない平日の余暇支援、通院、通所後または放課後の余暇支援、在宅での見守り・入浴支援、ショートステイ先への送りなど、在宅利用者の多様な希望に応じて支援を行った。

③ ヘルパーの質の向上

ア 必要な研修に参加し、援助技術を向上させる。特に、全身性障害者ガイドヘルパー研修をドロップの職員は今年度中に全員受講する。

→介護初任者研修に1名、行動援護後従事者養成研修に1名が行っている。

イ 支援報告書などから課題を見つけ、ヘルパー間の情報交換を密にするなどして解決方法を探り、次の支援に確実に活かしてゆく意識を持つ。

ウ ファイルマネージャーを活用し、支援報告書を誰でも閲覧し易くする事でGH職員と情報を共有し支援に活かせるようにする。

エ 引継ぎミスを防ぐ為、引継ぎは基本、書面かメールで行う様にする。

オ 居宅介護、行動援護の利用者については、定期的にモニタリングを行い、支援計画を作成する。

→イ～オ、いずれも行うことが出来た。

3. 会議の開催

ドロップ会議を月 1 回開催する。また、その他にヘルパーミーティングも適宜行う。

→月 1 回の会議を開催した。ヘルパーミーティングは行う必要がなく、実施しなかった。